

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所は地域密着型サービスの意義を踏まえた上、施設理念を掲げ管理者および職員は共有することで実践に繋げている。(年間研修予定参照)			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自治会の一員として地域活動に参加し、近隣地域の方との交流を大切にしている。事業所からは行事や会議などの参加、介護相談窓口を設け認知症への理解や支援方法などの助言及び地域包括に繋げるという役割を担う。	地域が高齢化し災害や、介護について考えることが増えている。施設としての協力体制はできている。また、多方面との交流に努め地域との相互関係の構築を図っている。		・地域高齢者の相談窓口。 ・地域の一員として活動行事等の参加。 ・包括へ繋げる役割。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議も回数を重ねるごとに自治会、民生員、包括、家族と多くの参加協力の基、利用者やサービスの実際、取り組み状況などを報告し率直な意見を聞くことで今後のサービスに繋げている。	運営推進会議も68回になり日々多くの意見を聞くことで施設運営に活かしている。地域や家族と共に入居者を支えていく。		・運営推進会議ではコロナが落ち着いたら研修や講演会等を取り入れていく。 ・運営に関するアンケート等サービスの向上に生かせるよう取り組んでいる。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	市町村主催の研修や公演には積極的に参加し、直面する問題点やサービスの見直し等いち早く取り入れている。現在はオンラインにて相談業務や研修を実施している。(認知症チームケアマネジメント推進研修会実施中)	市町村とは今まで通り意見交換や調査や報告等しっかり努め協力関係を築いていく。		・(市)主催の研修会等 認知症チームケアマネジメント推進事業 エンディングノートアドバイザー研修 (令和3年度分)
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束排除の理念や指針を明確化しマニュアルに沿ったケアを職員は守っている。身体拘束廃止委員会メンバーを中心に問題点や拘束を行わないケアを確認し実践している。(身体拘束廃止委員会議事録参照)		A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	勉強会等で職員は周知しており身体拘束をしないケアの取り組みを実践されている。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員勉強会にて「高齢者虐待法」を学び施設の理念・指針を示し徹底した防止に努めている。(年間研修予定参照)		A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	「職員の方が誠実に接して頂いていると思います」との家族回答あり。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている ⑤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	成年後見制度及び権利擁護について(市)研修や勉強会を通して学び、現在活用されている入居者もおり実践できている。また、相談窓口を設け個別相談や関係機関への橋渡しを行っている。(年間研修予定参照)			

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事前の施設見学及び説明会に十分時間をかけ家族の質問に答えるようにしている。契約時の不安や問題点については納得して頂いてから手続きを行い契約途中解除では家族に対し疑問を抱えていないか十分配慮している。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外部者へ発せる場として運営推進会議や行事・研修が定期的に行われ、入居者や家族からの要望や意見が聞ける関係づくりを心掛け、収集された内容については外部者へ率直な意見として発し施設運営に反映している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者や管理者は入居者の状況や実情知るうえで常に現場で関わっている職員からの意見や提案に耳を傾け必要であればすぐに対応し反映させている。			職員面談を年2回実施し率直な意見を聞いている。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者は日々の職員の努力や実績を管理者より知る機会を設け給与・労働時間・やりがい等を考慮し各人が向上心を持って働けるよう努めている。また、希望休優先とし職員は躊躇なく休めるよう働きやすい環境づくりを実現している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	「厳しい状況の下、職員の方の労働環境も大変だと思います。感謝しています。」 家族から言葉を頂きとても励みになりました。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者は個々の段階に応じた研修を職員が希望すれば受講できるように働き方や時間の工夫を行い職員の学びの気持ちを大切にしている。また、受講研修者の研修内容を他職員は周知しており協力体制は整っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の中にはスキルアップを目標に努力している人がいる。その気持ちに答えるべき研修等が受講しやすい環境づくりをされていることは良いことだと思います。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	グループホーム協議会の一員としてブロック研修会はもとより他事業所との勉強会や交流会、相談業務等にて意見交換を行い生活支援・医療・介護・予防の観点からサービスの質の向上への取り組みを行っている。(現在はリモートで実施)			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自分らしく暮らすために場面の中で「介護する、介護される」という立場ではなく共に支えあい一緒に過ごすことで本人の意向や関わり方が見えてくる。信頼関係を大切にしている。			

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の大切にしてきた人間関係や社会環境を把握し考慮しながら継続できるよう支援し、現在はタブレット端末などによりオンラインで面会するなど途切れない支援を実施している。	コロナ禍で難しいが写真や手紙、電話など交流の手段としてもっと活用していきたい。		文字を書くのも難しくなりましたが一生懸命書いたと思うと胸が詰まります。
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	センター方式によるアセスメントや家族め利用者本人に聞き取りを行い、可能な限り一人一人の思いや意向把握に努めている。確認が困難な場合は利用者本人の視点に立って検討している。			包括様より「センター方式を活用して希望や意向の把握をしようと取り組まれていることがわかりました。」とコメントあり。「入所自前の情報提供や入所後の家族記載や家族面談での聞き込み調査を行い本人の情報を職員間で共有し認知症ケアに役立っている」と回答する。
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	センター方式のEシートやカンファレンス等から、各担当者の気づきや意見、アイデアを把握し現状に即した介護計画を作成している。本人・家族の満足度や効果など短期目標に沿って評価したモニタリングに基づき、介護計画の見直しをしている。	介護計画を作成すにあたり担当職員の意見を聞くと共に積極的にご家族からの意向や希望をお願いしたい。本人の為にいろんな関わり方を模索し、実践している。状況に関して評価しながらプランはできている。	A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族様より「記録されているなら見せて下さい」とコメントあり。「介護計画とは、3か月毎に更新しているケアプランの事で見直し前に必ずご家族に要望などの聞き込みを行っている分です。また現行の状態がプランに即しているかモニタリングをもとに介護計画の見直しを行いご家族に確認の上記名をお願いし1部返却しております」と回答。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	センター方式のDシートに記入された日々の個人記録から、職員間で気づきを共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常生活の気づきや工夫、見直しは記録に残すことで職員間で共有できている。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人や家族からの要望があれば必要に応じて話し合いニーズに合わせた支援方法を模索し柔軟に対応している。	個々のニーズに対応するために入居者や家族から意見を聞けるようにしている。		状態や状況に応じて面談等実施し支援策を考えて実施している。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	安全な暮らしの確保という視点から、警察及び消防署、医師等による公演会、近隣施設や移動図書を利用し、教養・娯楽に親しみ、福祉バス旅行、ボランティア依頼にて豊かな暮らしの実現を図っている。	地域資源の活用が施設運営に重要である。入居者の豊かな生活の為に利用していきたい。		地域資源との協働にて楽しい生活が送れている。地域の人に支えられていることを実感しています。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人及び家族の希望にて主治医(内科・精神科・眼科・皮膚科等)が定期的に往診し職員が状況を報告また、検査必要時は受診支援を行い適切な医療が受けられ医療連携を図り協力体制ができている。			ほとんどが施設での往診となっているため助かっている。主治医と直接関わることができ状況や状態の報告も早く、安心しています。

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院する際、医療機関に施設生活の状況や介護保険情報など「医療と介護の連携シート」を使用して伝えている。退院まで病院と連絡取り合い、情報を共有できるように努めている。		A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所の方針を共有し、本人・家族の望む暮らしが最後まで行えるように看取り介護計画書を作成している。意向の確認を行いながら内容を見直し、チームケアで取り組める計画を作成できるよう努めている。		A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変及び事故発生時の対応マニュアルを設け職員勉強会を通して把握している。定期的な研修や訓練を自施設のみならず地域資源を利用し、安全かつ迅速な対応ができるための実践を身に付けている。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年2～3回の各災害に対する訓練を実施。重度者が多いため夜勤時の職員確保に問題があるが事前に非難に向けての連絡網や近隣への要請、訓練等を密に行っている。	災害を想定した対策は入居者の安全を第一に緊急時スムーズな支援が出来る備えであり充分注意しながら取り組んでいる。	A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	包括[様より]「避難訓練の実施状況」とコメントあり。「定期的な避難訓練を実施し、避難経路の周知と近隣への協力を得ている。避難時の携帯用個人情報ファイルには緊急連絡先・主治医・服薬などが書き込まれ緊急時は避難袋と共にすぐに持ち出せるようにしている」と回答。 25.家族1様より「入居者Nは、移動させることはリスクが高いと思われます。移動させない(残す)ことを希望します。立ち合いが必要なら伺います」と意見がありました。「災害対策としての避難方法については施設内で重度(寝たきり)の方が3名、車椅子使用者が3名、歩行支援が3名と、どの方も状態応じてのリスクは伴います。このような状況ですから現実的に考えて昼夜を問わず近隣の協力や行政機関への依頼が不可欠です。その為に日ごろの訓練が重要だと考えます。また、入居者の安全に移動する手段としてのストレッチャーや担架の準備、使い方など、車いすでも可能な通路、歩行者の通り道の段差や車面などの確認、地域資源を活用しながら安全対策に努めております。訓練時の立会いについては是非参加して頂ければと思います」と回答。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	尊厳と権利が保たれる生活が送れるように一人ひとりを尊重し誇りや自尊心を損ねないように心がけている。(勉強会にて言葉使いや排泄ケア・入浴支援等での配慮)		A. 充分にできている ⑥. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員側の都合で業務を遂行することなく個々の状態やペースに合わせた支援を行い希望に応じて柔軟に対応している。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	通常の食事以外に食事が楽しみなものになるよう希望や嗜好、行事食を取り入れ入居者と職員と一緒に作る場面を設けている。また、自己にて片付けできるよう食器等に工夫し、一連の作業で力を発揮されている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・食材として庭の畑で入居者と育てた野菜を収穫し食卓に並んだらさぞかし美味しいことでしょう。畑の手入れご苦労様です。 ・包括K様より「特別食が必要になっているのですね」の問いに「現在、常食からミキサー食、胃瘻の方まで個々の状態で提供しております。出来るだけ食事が楽しみとなるよう心掛けています」と回答。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の状態に応じ形態や量加減を調整している。また、食事・水分減時は主治医の指示にて補助食やカロリー調整を行い全ての個人記録に記載し、管理を徹底している。			食事量やカロリー量など主治医が把握し本人の健康維持に必要な形で指示を出してくださるので安心していきます。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎食後の歯磨き、義歯洗浄にて口腔内清潔保持に努め歯科主治医連携にて口腔全般の状態の把握と緊急時の対応、ケア指導や講習実施にて入居者のケアに反映されている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	包括K様より、「定期検査を入れてあるとの事」に対し「入所後、口腔内に問題が発生した場合や、半年に一度歯科主治医との連携にて定期健診を実施しております」と回答。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	状態に応じてパンツやおムツを使い分け、排泄パターンを知ることでオムツ外しや自立排泄可能期間維持に努めている。また、個別の排便チェックにて食事形態の変更や服薬実施		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	オムツからリハビリパンツへリハビリパンツから布パンツへ各1名改善されている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入浴前に健康状態を確認し、入浴が心身共にくつろげ楽しみに感じて頂けるよう希望時間、回数を考慮しコミュニケーションを図りながら支援している。(101温泉実施)			6/10 2年ぶりの温泉旅行開催に入居者の笑顔爆発楽しい時間を過ごされました。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は個々一日の睡眠や休息パターンを知り状態を見極め緊張や疲労等その時々で柔軟に対応している。ストレスのない生活の流れを把握することで心身の安定を図っている。			生活リズムを整えるだけでなく、心身を休める工夫が考えられている。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	多々医療機関を抱えるため服薬には慎重な態度で臨んでいる。連携薬剤師を持ち、指導がなされ職員は知識を身に着け服薬支援、症状変化時の早急な対応が行われている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の生活歴や嗜好についてはできるだけ詳しくセンター方式に記載して頂き自分らしく暮らして頂けるよう有する力を踏まえ役割や希望を取り入れ生きがいある生活の実現に繋げている。	情報収集として入所の際に聞き込みさせて頂いているが施設生活の中で変化していくことも増えてくる。		その時々状況に合わせた臨機応変な対応に入居者が安心している。
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外出支援は入居者の意向が反映され職員が安全第一に企画している。地域資源をフル活用し地域交流の場や遠方への福祉バス旅行はとりわけ人気を呼んでいる。個別買い物支援や家族との外出支援等にも積極的に取り組んでいる。(バス旅行家族参加あり)	コロナの状況を見ながら外出範囲を広げる。現在は入居者の行きたいところの希望を募っている。		面会制限緩和にて家族と過ごす時間ができたらバス旅行等外出行事に参加して頂きたい。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々が使えるお金を所持し、必要に応じて使える。また、自己管理できない場合は家族と相談し施設管理している。その際、内訳明細書、領収書、金銭出納帳等で確認報告を行っている。(個別買い物支援)			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族や大切な人との関係が途切れないよう手紙や電話支援をしている。現在はオンライン面会や家族SNSも導入しお互いの様子を直接動画で送ったり、話が出ている。特に遠方の家族や知人にも支援の輪が広がっている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	共用空間は動線上の危険物排除し、できるだけ個々が自立した生活が送れるよう安全で居心地よい場所となるよう心掛けている。共同生活の場は気の合った仲間同士楽し気に過ごされる場面あり自由かつ工夫された空間となっている。また、居室は今までの生活スタイルを継続でき、慣れ親しんだ物を持ち込むことを基本的に状態に合わせた工夫も考慮されている。		Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	センター方式を活用し「できること」「わかること」を把握し、個々に役割を担い生活リハビリを行うことが日課になっている。少し手伝い、出来ると楽しい様子で持てる力を発揮する原動力になっている。			家族よりコメントあり「入所前は何もできない、何もしたくない状況でした。ところが、LINE画像でのいきいきとした母を見て頑張ってくれている事に感激しました」
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活リハビリ、学習療法、レクリエーション、園芸療法の活動を通じて会話したり笑ったりしながら楽しく過ごす中で個々の担う役割を見つけ生きがいを見出し自分らしさを感じる事が出来ている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の役割の工夫、決して欲を出さず着実に可能性がある事柄で入居者の意欲や満足を十分引き出して頂き大切なことを学びました。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の行事・清掃活動・防災訓練への参加や園芸療法で出来た作物のお裾分けなどで交流が出来ていたがコロナ禍の影響で関りが少なくなっている。	地区の清掃活動や地域消防訓練、中央西地区運動会、ボランティア依頼し交流会等一日も早く入居者と参加できることを願っています。		美化活動は職員と共に参加ボランティア活動、特に歌や踊り、子供たちの参加が人気あるようです。
49	総合	本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	気持ちが表現できる人は「ここは良いがね」「ここにずっと居ていいですか」「今は幸せです」と言葉がある。寝たきりの人も安心されているような表情が見て取れ安心して充実した日々を送っていると感じ取れる。	本人にとって施設が生活の場であることの理解と家族がどのように暮らしを望まれる施設生活。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の居場所がある。 ・寄り添ってくれる人がいる。 ・困ったときに助けてくれる。 ・自分を守ってくれる。 ・幸せな気持ちになれる。(入居者が感じる生活)